

日銀の金融政策運営とわが国の 財政運営の課題

（株）日本総合研究所主席研究員
河村 小百合

- * 日銀の抱えるリスクを財務状況から考える
- * 国債発行継続で累増する日本の公的債務
- * 前途多難な財政に従属した金融政策
- * 金融正常化の遅れで円安が加速
- * 無責任な日銀・政府の将来見通し
- * 出口戦略が明確な海外の主要中央銀行
- * 徹底的な開示姿勢を貫く米国のFed
- * トラス・ショックに市場重視で対応した英国
- * 先々の危機対応力が不十分な日本
- * 現実味増す資産課税での債務調整



山縣 それでは開会いたします。（拍手）

本日は石橋湛山賞の受賞記念講演会ということで、第45回の湛山賞を受賞されました河村小百合先生に来ていただきました。

河村先生は日本総合研究所の調査部で主席研究員をなさっていらっしゃいます。

ご講演に先立ちまして、本日は石橋湛山記念財団の代表理事、石橋省三様から一言ご挨拶をいただきたいと思います。

石橋様、よろしくお願いいたします。

石橋 石橋です。（拍手）

これが受賞記念講演会だと思って来られた方は少ないかと思いますが、45回の石橋湛山賞の受賞記念講演会でございます。お集りいただきましてありがとうございます。

ここ数年間、湛山賞は2作品が受賞されてきたのですが、45回は河村先生の作品一冊だけでございました。受賞選考会議ではいろいろ議論が出るのですが、これからご講演をいただきますが、啓蒙的であるというのが石橋湛山賞の一つの重要な選考基準でございまして、その意味からしまして、非常に啓蒙的ということと湛山賞の受賞ということに結びついております。本日、そういう至って啓蒙的なお話が伺えるかと思っておりますので、ぜひ皆様、ご清聴いただければと思います。

本日はありがとうございます。（拍手）

山縣 先生の受賞作品は講談社の新書から出ています『日本銀行 我が国に迫る危機』という本でございます。今日は講談社の方にも来て